



柱取付式ジブクレーン

取扱い説明書

品番 JBC1037H
JBC1621H
JBC1637H

○ この度は、(株)スーパーツール のクレーンを お買い上げ頂き有難うございます。

本書は、ジブクレーンをいつまでも快適にご使用頂く為に、正しい組み立てや取扱い・簡単な保守点検について記載いたしました。

組立前に、必ず、この取扱い説明書をお読み頂き作業の能率アップにお役立て下さい。

*1. ご使用前に必ずよくお読みになり正しくお使い下さい。

警告表示や注意事項を守らないで不適切な取扱をすると事故の原因となる事があります。

*2. お読みになった後は、取扱説明書を大切に保管して下さい。

お願い

本書は、品質改良のために変更があった場合、内容が一部変更することがありますので、ご了承下さい。

◇危険 ご使用される前に

ジブクレーンを安全・快適にご使用頂く前に、日常の管理と次の注意事項をお守り頂き、
末永くご愛用下さい。

1. ご使用されるホイストは、必ず、ロードリミッター付きのクレーンの容量に合った巻上機を取り付けてください。
クレーン表示容量は、**つり上げ荷重**です。
(巻上機・吊具質量を含むクレーンに負荷できる荷重です。)
2. ジブクレーンのつり上げ荷重以上は、絶対に吊り上げないで下さい。
3. アームの旋回範囲内に障害物を置かないで下さい。
4. アームの旋回半径は、240度程度です。旋回はゆっくり行い、吊り上げ時、吊り荷が揺れないようにして下さい。大きく揺れますと容量以上の荷重がクレーンに働き、破損につながる場合があります。
5. 使用範囲内に立ち入る時は、必ずヘルメットを着用して下さい。
6. 吊り荷の下には、絶対に立ち入らないで下さい。
7. 車や走行クレーン・フォークリフト等で引っ掛けたり当てたりしないで下さい。
8. 使用しない時は、アームを壁際に折りたたんで、流れない様にして下さい。
9. ボルト・ナットによる組み立て箇所は、長年使用しますと緩みが起こる場合があります。
使用前に確認してご使用下さい。(マーキングによる目視確認など)
10. 点検基準に基づいて、各部の点検を行って下さい。
11. 絶対に改造は、しないで下さい。(保証・保険の扱いが出来なくなります。)

警告表示の意味

危険：取扱を誤った場合、危険な状態が起こり、死亡又は重傷を受ける可能性が想定される場合。

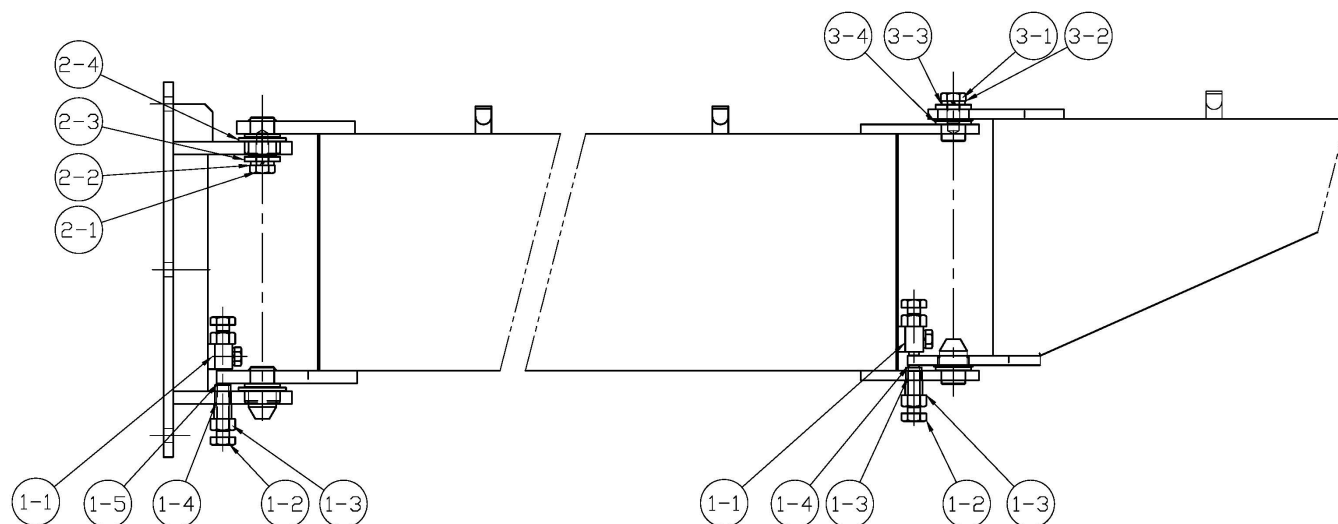
△注意：取扱を誤った場合、危険な状態が起こり、中程度の障害や軽傷を受ける可能性が想定される場合及び、物的障害の発生が想定される場合。

なお、**△注意** に記載した事項でも状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載しておりますので、必ず守って下さい。

2. 部品リスト

お届けしたケースの中には、次のパーツが収納してあります。組立手順に従いながら開封して下さい。

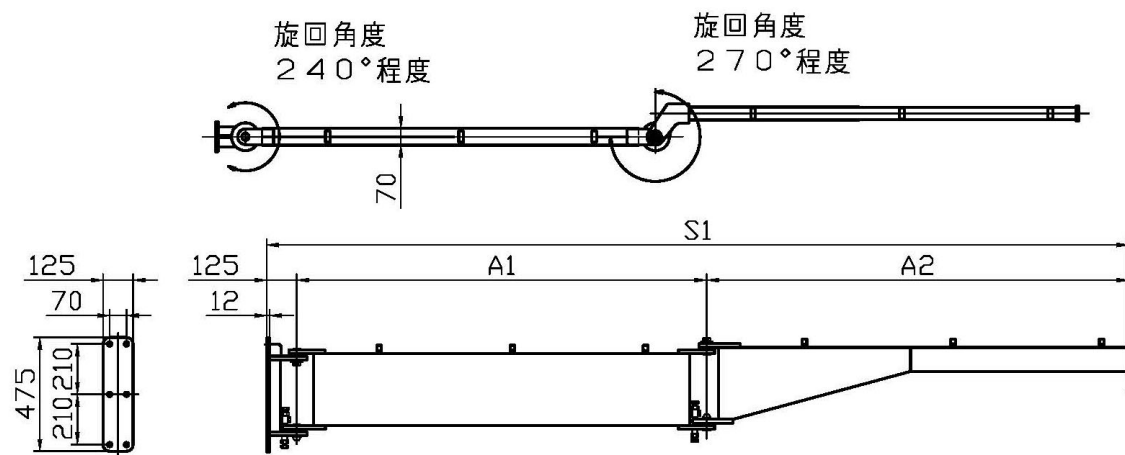
(部品は組み立てて出荷しておりますので、設置時に部品をなくさない様ご注意ください。)



部品番号	品名・サイズ	数量
1 - 1	ブレーキ本体	2
1 - 2	六角ボルト M16×35	4
1 - 3	六角ナット M16	4
1 - 4	ウレタン棒	4
1 - 5	ブレーキロッド	4
2 - 1	六角ボルト M16×25	1
2 - 2	SW M16	1
2 - 3	座金 51×17 t=6	1
2 - 4	SAF3520	2
3 - 1	六角ボルト M16×25	1
3 - 2	SW M16	1
3 - 3	座金 51×17 t=6	1
3 - 4	SAF3520	2

仕 様

品番	つり上げ荷重	質量	取付部旋回角度	アーム部旋回角度
JBC1037H	100kg	70kg	240° 程度	270° 程度
JBC1621H	160kg	50kg	240° 程度	270° 程度
JBC1637H	160kg	85kg	240° 程度	270° 程度

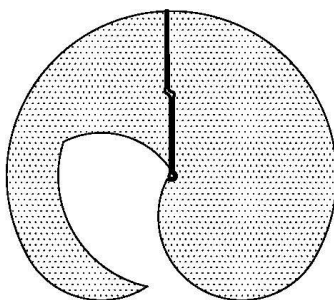


寸法表

(mm)

品番	S 1	A 1	A 2
JBC1037H	3,608	1,714	1,769
JBC1621H	1,858	875	858
JBC1637H	3,608	1,714	1,769

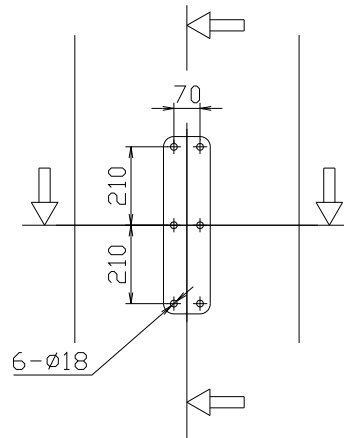
作業範囲



4. 柱に取付プレートを取付ける

△注意

1. 取付柱は必要強度以上の柱に取り付けて下さい。
2. 設置する柱がきまりましたら、設置する柱に基準線を引き中心をだし、縦の基準線を引いてください。



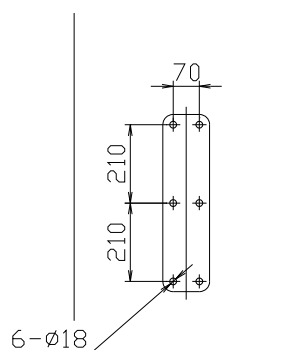
溶接する時

1. 基準線を使い、取付プレートを溶接して下さい。
取付プレートが垂直に溶接できていない状態では、アームの流れが起こったり使用しにくい場合があります。
必ず、垂直に取り付けて下さい。
2. 取付プレートは、十分な強度の全周溶接をして下さい。
3. 溶接・取付け作業中にブレーキ部の部品をなくさない様にして下さい。
特に①ー④（ウレタンゴム）・①ー⑤（ウレタンゴム・キャップ）はセロテープで止めてあるだけです。

ボルト・ナットで止める時

1. 基準線を使い、取付けボルト用の穴の位置を出し、下図の寸法で穴明けをして下さい。
取付けプレートを取付けた後、ボルト・ナット・スプリング座金で固定して下さい。
2. 取付ボルトは、M16を使用し、ボルト・ナットは10.9T以上の強力ボルトを使用して下さい。
3. 取付け作業中にブレーキ部の部品をなくさない様にして下さい。
特に①－④（ウレタンゴム）・①－⑤（ウレタンゴムキャップ）はセロテープで止めてあるだけです。

取付ボルトの穴の位置



⚠危険

- 1) ご自分でのジブクレーン製作や据付はやめて下さい。必ず、専門業者に依頼して下さい。
☆クレーンの落下などのおそれがあり、大変危険です。
- 2) 溶接作業は、有資格者が行うこと。
- 3) 電気チェーンブロックをジブクレーンの巻上機として使用した場合は、必ず、アース工事を行って下さい。また、アースのほかに漏電遮断機を電路に取り付けて下さい。
☆アースは、第3種設備工事あるいは特別第3種設備工事を行って下さい。
☆アース及び漏電遮断機の取付け工事は、電気設備技術基準及び内規規定にしたがって下さい。
☆万一漏電した場合の感電事故を防ぐためです。
☆詳細は電気チェーンブロックの取説を参照下さい。

5. 旋回アームをつなぐ

- ① 取付プレートのブレーキ本体を外して下さい。(図-1)
- ② アーム部のアーム取付ボルトを外して下さい。(図-2)
- ③ 次にアームをクレーン等で吊り上げ、取付プレートに上からピンを差し込む様に接続して、図-3の様に座金・スプリング座金・アーム取り付けボルトでしっかり組み立てて下さい。

注意;) 取付プレートのプレート側ブレーキのセロテープは、はがしてご使用下さい。

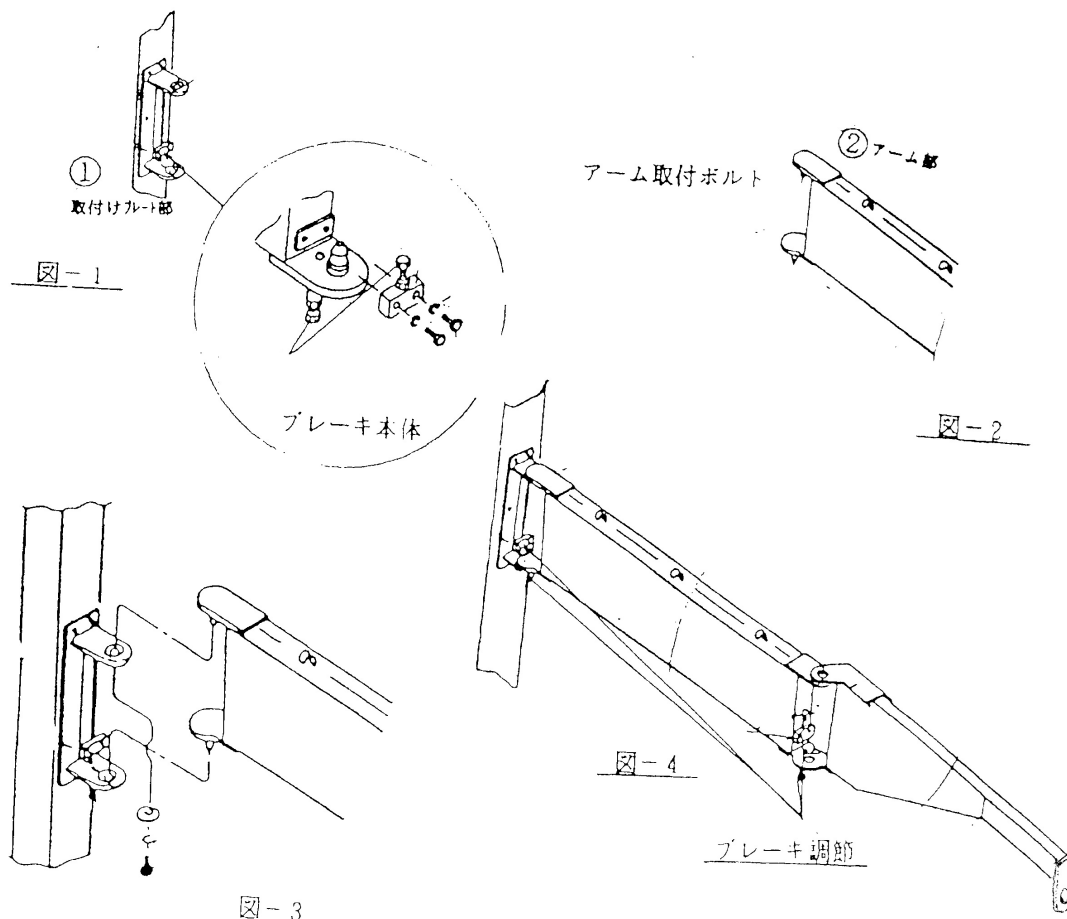
ウレタンゴム・キャップはなくさない様にして下さい。

- ④ この状態で一度、アームを延ばしアームが流れないか確認をして下さい。
アームがひどく流れる様でしたら再度、取付プレートを垂直になる様に再組立を行って下さい。(第1アームと第2アームのブレーキをゆるめて行って下さい。)
- ⑤ 再度、取付プレートのブレーキ本体を組立て下さい。(図-4)
- ⑥ 以上で組立は完了です。次にアームのかたさ等をブレーキで調整して下さい。

(調整方法は、ブレーキ調節の頁を参照して下さい。)

又、クレーン等がない場合は、第1アームと第2アームを分解して組立て下さい。

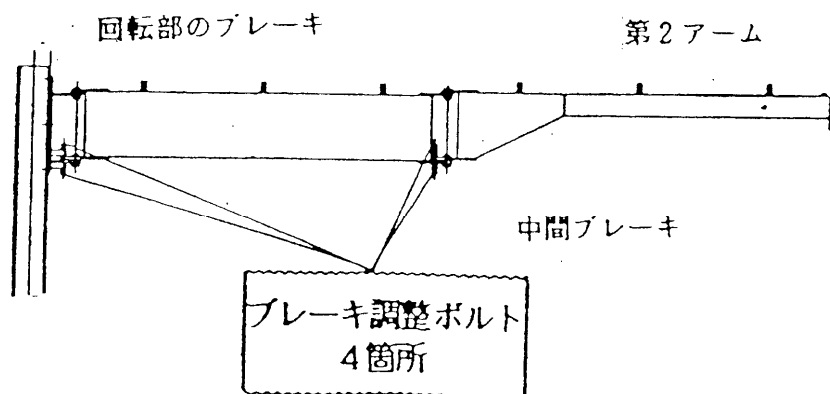
分解して組立の場合は、必ず、ボルト等の締め忘れがないか、部品が残っていないか確認して、確実に組立て下さい。



6. ブレーキの調整

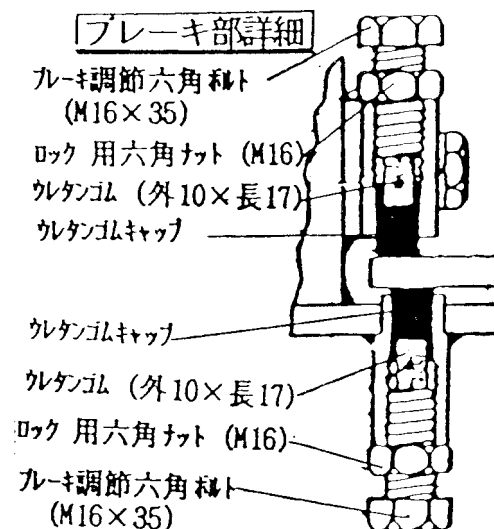
アームを旋回させ、ブレーキ調整六角ボルトを締め込みながら調節を行って下さい。

- ① まず、最初に中間ブレーキを第2アームを旋回させ、ブレーキ調整六角ボルトを締め込みながら調整して下さい。
上下（2ヶ所）のボルトを均等になる様に締めたり緩めたりしながら調整して下さい。
- ② 次に回転部のブレーキを中間ブレーキと同じ要領で調整して下さい。この時、中間ブレーキよりも回転部のブレーキを“かたいめ”に調整しますとアームがスムーズに動きま
す。
- ③ ボルトの調整が終わった後、最後にゆるみ止めロック用六角ナットを締めこんで、ロ
ックして下さい。



注意及び確認

1. アームと柱が垂直に建っているか確認して下さい。
(垂直に建っていないとアームが流れ危険です。又、ブレーキボルトにも余分な締め込みが必要となり、ウレタンゴムの消耗も早くなります。)
2. ブレーキボルトを上下共、均等に締め付けて下さい。
3. ウレタンゴム及びブレーキ部は、消耗品ですので、ブレーキがきかなくなりましたら、新品と交換して下さい。
4. 注油する時は、ブレーキ部にかからない様にして下さい。ブレーキがきかなくなります。

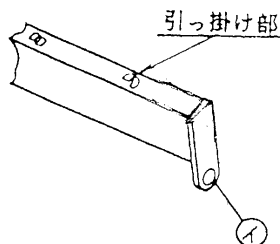


△注意 7. 使用方法

① アーム先端に巻上機を取り付ける場合

④の部分に巻上機のフックを取り付けて下さい。この時、巻上機は、容量に合ったものをご使用下さい。

② 巻上機の電源は、アーム上部にある引っ掛け部にビニールテープ又は、タイラップで止めて下さい。又、曲がる箇所は、余裕を持って設置して下さい。

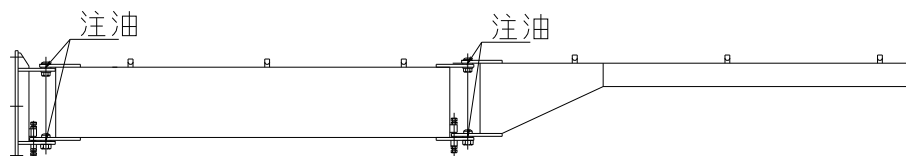


◇危険 8. 保守点検

日常使用前には、必ず、下記点検を行って下さい。

点検箇所	点検内容	毎日	1ヶ月毎	状況	処置
ブレーキ	各アームが流れないか	○		ブレーキがきかない	交換
ボルト・ナット	各接続部のボルト・ナットにゆるみがないか		○	緩んでいる 又は紛失	増し締め 取替え
アーム	アームに曲がりはないか		○	10mm 以上の曲がり	廃却
	溶接の割れは無い		○	ある	廃却
柱部	各接続部のボルト・ナットにゆるみがないか		○	緩んでいる 又は紛失	増し締め 取替え
	曲がりはないか		○	10mm 以上の曲がり	廃却
	溶接の割れは無い		○	ある	廃却
注油	注油を行って下さい。		○		

注油箇所（注油はアームにかからない様にして下さい。ブレーキがきかなくなります。）



注油はスプレーグリス等で行って下さい。

それぞれ点検の結果、異常が発見されたときは、直ちに使用を中止し、廃却するか、メーカー点検を行って下さい。

ジブクレーン自主点検記録						
項目	内 容	周期	年 月 日		年 月 日	
			良	不良	修理日	修理日
固定柱(Ｋ)	アンカーボルトのゆるみ	1ヶ月				
	溶接の割れ	6ヶ月				
	フランジ部の曲がり	3ヶ月				
	固定床面の状況	6ヶ月				
継柱(Ｋ)	ボルト・ナットのゆるみ	1ヶ月				
	溶接の割れ	6ヶ月				
	フランジ部の曲がり	3ヶ月				
	ボルト・ナットのゆるみ	1ヶ月				
回転部(Ｋ)	溶接の割れ	6ヶ月				
	フランジ部の曲がり	3ヶ月				
	ベアリングの異常	3ヶ月				
	ベアリングの注油	3ヶ月				
回転柱(Ｋ)	ブレーキボルトの摩耗	1ヶ月				
	ボルト・ナットのゆるみ	1ヶ月				
	溶接の割れ	6ヶ月				
	フランジ部の曲がり	3ヶ月				
回転部(H・H F・H C)	ボルト・ナットのゆるみ	1ヶ月				
	溶接の割れ	6ヶ月				
	フランジ部の曲がり	3ヶ月				
	ブッシュの摩耗	3ヶ月				
アーム部(共通)	ブッシュの注油	3ヶ月				
	ブレーキボルトの摩耗	1ヶ月				
	ピンが曲がり	3ヶ月				
	ローラーピンが振っていないか	3ヶ月				
中間アーム(共通)	ボルト・ナットのゆるみ	1ヶ月				
	溶接の割れ	6ヶ月				
	フランジ部の曲がり	3ヶ月				
	ブッシュの摩耗	3ヶ月				
検査実施責任者及び 検査総括責任者の印	ブッシュの注油	3ヶ月				
	ブレーキボルトの摩耗	1ヶ月				
	ピンが曲がり	3ヶ月				

使用開始日： 年 月 日

- 点検要領は前頁の点検基準を参考に行ってください。
- 点検の頻度は各事業所で取組に日時を決めて定期検に行ってください。
- 記載表中の各部品の点検の結果下表の該当する点検内容の記号を圈で囲んでください。
- 点検の結果、各部品に1つでも×の項目があった場合、使用は出来ません。(×の項目を修理してから再度点検を行い緑色印を○と×の差使印を差掛ける下さい)
- クレーン安全規則の第3条に準じて巻き上げ装置、ワイヤロープ及びホースの損傷の有無、フック等の吊具の損傷の有無等の定期自主点検を行ってください。

年次検査記録			
実施日	年	月	日
責任者			
積載荷重に相当する荷重の荷による荷重試験の結果、ならびに月別検査項目の検査の結果。			
問題点			
①			
②			
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			
⑨			
⑩			
問題点の処置完了月日、及び処置責任者			
処置年月日			
① . . .			
② . . .			
③ . . .			
④ . . .			
⑤ . . .			
⑥ . . .			
⑦ . . .			
⑧ . . .			
⑨ . . .			
⑩ . . .			
クレーン等安全規則第38条は第21条の規定により、定期自主点検の記録は3年間以上、保存されなければなりません。			

記号	点検内容
△	点検して異常がなかった
T	締付整備をして異常なし
L	注油をして異常なし
C	清掃をして異常なし
O	部品を交換して異常なし
X	使用限界を越えている

クレーン等安全規則
第38条は第211条の
規定により、定期自主
点検の記録は3年間
以上、保存されていな
ければなりません。

株式会社 **スーパーツール**

お問い合わせ、ご相談は通話料無料ハローナンバーへ

お客様相談室 0120-86-4859

ホームページ

<https://www.supertool.co.jp/>

□本社・工場〒599-8243	大阪府堺市中区見野山158番地	TEL 072-236-5521(代) FAX.072-236-5785
□大阪支店〒599-8243	大阪府堺市中区見野山158番地	TEL 072-236-5526(代) FAX.072-236-3817
□東京支店〒142-0041	東京都品川区戸越3丁目4-18	TEL 03-5750-2341(代) FAX.03-5750-2347
ゴールドステージビル4F		
□名古屋支店〒460-0026	名古屋市中区伊勢山1丁目2-4	TEL 052-323-0701(代) FAX.052-323-0720
□札幌〒003-0029	札幌市白石区平和通3丁目北4-20	TEL 011-864-3581 FAX.011-864-3590
□仙台〒984-0031	宮城県仙台市若林区沖野2丁目8-5	TEL 022-294-1922 FAX.022-285-1513
□新潟〒950-0855	新潟市東区江南2丁目6-2	TEL 025-287-5353 FAX.025-287-6003
□北関東 〒337-0004	さいたま市見沼区卸町2丁目6-9	TEL 048-682-5000 FAX.048-682-5059
□広島〒733-0012	広島市西区中広町2-14-27	TEL 082-293-5570 FAX.082-293-5531
□福岡〒812-0016	福岡市博多区博多駅南3-10-23	TEL 092-431-1897 FAX.092-431-1909